



Minoh

ハットクラブだより

2023年6月 No.54

Hutt

2023年度（令和5年度）総会を開催

2023年度年次総会・意見交換会が開催されました。6月4日（日）、20有余名の皆さんが昨年と同じ市民会館の大会議室に集いました。コロナ禍により2度に渡る文書表決開催を経て、昨年からは対面での開催です。マスクなしで会員相互にこやかなお顔に接することができたことは2019年以来、丸4年ぶりです。

コロナ禍のため、昨年のご来賓の出席は叶いませんでしたが、今回は、上島箕面市長、小木曾文化国際室長（教育長代理）、前田MAFGA理事長、神代議員友好連盟会長のご臨席を賜りました。

お忙しい中でのご参列に、この紙面をお借りして改めてお礼申し上げます。

2023年度（令和5年度）総会

阿部会長の開会宣言に続き、ご来賓へのお礼、対面交流の大切さを再認識する総会の始まりです。

ご来賓挨拶は上島市長からいただきました。

当クラブの市民交流活動に対する敬意、感謝のお言葉をいただきました。

ハット市美協会と交流を継続する箕面市美協の展覧会開催の案内、北急延伸に向けた8月からの箕面ラッピングトレイン運行と2年後の大阪万博への参加など、外へ情報を発信するアクティブな市と市民の活動の紹介をいただきました。私達のクラブの新たな年度にふさわしい励ましをいただいた思いです。

司会の窪副会長のリードのもと、議長、川島副会長により議事に入りました。数年前に比べて、会員相互交流、ハットのみなさんとの交流が縮小された状況でしたが、今年度への期待を託す審議となりました。

多くは例年通りの内容でしたが、以下案件について説明ならびに参加者の承認をいただきました。

- (1) 2022年度：事業報告、決算報告、会計監査報告
- (2) 2023年度：役員体制（案）

新規役員に若い世代をお願いしています

新規役員のみなさまは「最終ページ：クラブからのお知らせ」参照

- (3) 2023年度：事業計画（案）、予算（案）

この内、事業計画（案）について、

コロナを超えて、対面による例年の年間各種行事ならびに定例活動開催を実現させることに加え、新たなプロジェクトとして、西南図書館を姉妹都市交流の拠点とする取り組みの検討を行い、下記の事業導入を策定する提案が示され、参加会員のみなさまから期待の感想をいただき、総会を終えました。

- ・子供英会話サロン・姉妹都市青少年交流の事業検討



阿部会長挨拶



上島市長挨拶



総会

意見交換会

みなさんのクラブ入会のきっかけは、海外（NZ、Huttほか）のみなさんとの交流を通じた相互理解と友情を期待することに集約されているように思われました。

新たな活動への可能性を秘めた若い会員の心と、長い経験に基づく豊かな見地との融合に今後の希望的な展開を期待するとともに、コロナによる制約を超えて、いかにして切れ目のない交流を持続するかなど、活発な意見交換がなされました。

次年度は、是非スイーツ付きの茶話会として、より楽しい和みのときとなりますように。



和やかな意見交換会

お花見 窪 敏夫

3月31日(金)万博公園でお花見を開きました。三年ぶりの開催で当日は快晴、桜は満開、汗ばむほどの陽気でした。平日の昼間でしたが園内には沢山の人が居て、三年間の鬱々とした気分を吹き飛ばすような賑わいでした。園内ではあちらこちらで外国人観光客らしき団体を見かけましたが、このシーズンになると『日本へお花見ツアー』が人気だそうで、満開の桜の下で楽しそうに写真を撮っていました。

そう言えば現役の頃、東南アジアの駐在員がこんな事を言っていました。「こちらは年がら年中暖かいのはいいけれど、日本は四季があるのがいい。着る物も、食べる物も、見る物も季節によって変化がある。我々は年中短パンにサンダル履いて、季節感が無い物ばかり食べてる・・・お花見いいなあ〜」と。

話は変わりますが、物の本によると桜の花見は平安時代の宮廷行事として始まったそうです。実に1200年に渡って受け継がれて来た習慣で、源氏物語の『花宴(はなのえん)』の章には桜の下で宴を催す姿が描かれているそうです。当時は歌会や音楽を楽しんだようで、今と変わらぬ“日本の春”ですね。

こうして外に出て弁当を広げて皆でワイワイガヤガヤ、春のひと時を楽しむ日がやっと戻って来たと感じた一日でした。



3月31日 万博公園の桜
例年より数日早い満開となりました

桜マジック 川端 有美

数年前の四月の一週目、私は、よく家族でおにぎりを持って歩いた散歩道で桜を撮り、何度も家族のLINEに送りました。

その年の五月、大阪は葉桜の季節。私は夫と「何でこんな遠くに」と思いながら、転職して秋田市に行ったばかりの娘を尋ねました。娘が案内してくれた千秋公園や秋田城跡などの名所は、どこも桜色。特に夕日の中、池に張り出した桜の枝はクリスタルガラスのように輝いて、夢のようでした。とは言え、すでに満開は過ぎ、花吹雪が舞っていました。

翌々日、青空の下、私達三人は車で田沢湖に向かいました。そこで見たのは、まさに満開を迎えようとしている見事な桜。田沢湖を一周しながら、車を停めては散策し、光る雲のような桜を楽しみました。車の中ではおしゃべりの花も満開になりました。

娘は大学から家を出て就職、転職して秋田。「何でこんな遠くに」と思いながら尋ねた土地は、娘が辿り着いた場所。「ここで暮らしていく」娘のそんな気持ち、桜マジックで私の心に染み込んできました。

いいところだね。そんなに遠くないし。



お花見参加のみなさん
お弁当もお酒もおいしい!

桜に人生想う 藤田 安奈

毎年二月に入ると、家の前の桜の木が気になります。最初は木の枝に小さなこげ茶色のつぼみが付き、日ごとに赤みを増して膨らんでくる。それらを見ていると、開花がとて待ち遠しくなる。

ようやく花が開き、満開になると、不思議と桜の印象が霞んでしまう。いい例が今年の桜。ハットクラブのお花見があって参加したが、満開の桜にも関わらず、目の前のお酒に気を取られ、「花見」でなく「酒見」になってしまった。そして数日後に花は散り、家の前の歩道はピンク色に染まっていた。

瞬く間に過ぎ去った桜の花。

そこで思い出したのが、イギリスの詩人による桜の詩だ。ここでは、桜を見て移ろい行く人生を詠んでいる。(これは私の勝手な解釈ですが。。。)

"Loveliest of Trees"

(A.E.Housman (1859-1936))

Loveliest of trees, the cherry now
Is hung with bloom along the bough,
And stands about the woodland ride
Wearing white for Eastertide.

Now, of my threescore years and ten,
Twenty will not come again,
And take from seventy springs a score,
It only leaves me fifty more.

And since to look at things in bloom
Fifty springs are little room,
About the woodlands I will go
To see the cherry hung with snow.

元ALTミッシェルさん箕面市長表敬訪問 六角みよ子

Hutt市に在住のMichelleさんから、訪日の知らせを受けたのは、2月初旬でした。ミッシェルさんは、2016年に箕面市ハット市教員人事交流プログラムで、2週間箕面市に滞在。そして2018年から1年間は、とどろみの森学園でALTとして勤務されました。

その1年間、ミッシェルさんは、本クラブの英会話サロンや講演会の講師として快く協力してくださいました。

そこで、市長表敬訪問を企画し、4月21日（金）、無事に終わりました。双方市長からは親書等が交換され、国際協力都市間の絆が一層深まる感慨に浸りました。また今後の両市間の交流に、明るい兆しを感じるものでもありました。本クラブからは、阿部会長代理の川島副会長と2名の副会長が同席しました。



No Rain, No Rainbow

河野 寿一

去る2023年2月23日から4日間、とても短いけれどニュージーランドの旅を書かせていただきます。

1 フェザーストンの80周年追悼式への参加（2月25日）

まず、御霊に哀悼の意を捧げ、今は多くの先人のおかげだということに改めて思い起こすことが出来ました。

2 弓道関係者との再開

ニュージーランド弓道協会元会長を始め多くの知人友人と再開することができました。子供ができた方、転職された方、新たに弓道を始められた方など3年の月日の長さを感じ、こうしてまた弓道を一緒にできることを喜ぶ再開でした。

3 大好きな人たちとの再開

オークランドでは、マオリ語学習でお世話になったゆかさんご夫婦に直接お礼を言うことができました。オンラインでは何度もお会いしていたので初めてとは思えない親近感でお話させていただきました。

NZ姉妹都市協会副会長レイさんご夫婦、堺ウェリントン協会会長時代からお世話になっているモリス裕美さん、元ALTのミッシェルさん始め、日本から移住した友人たちともお会いし、本当に楽しいひと時を過ごさせていただきました。

4 No Rain, No Rainbow

この3年間は自粛に始まり、大変な時期でしたが、それがあって出会いの大切さと喜びを再認識する、日本流に言えば雨降って地固まる「No Rain, No Rainbow」を感じる素晴らしい旅でした。



レイさんご夫婦とみほさん
(ハット市の居酒屋にて)



ゆかさんのお店にて



弓道練習風景
(ミノハウス弓道場)



ミッシェルさんと
市庁舎裏橋本ウォークにて

English learning 名古 光夫

Hello every English learners.

This time I write about my Routine work for doing English. I have studied it for years. And at the same time I have made so many mistakes and spend wasted time to do it...

so I guess I know some tips for them not to happen again that's produced through the eyes of Japanese who has struggled but tried to do it. This couldn't be made by native English teacher. so I guess they can be made sense to many English learners in Japan like me as person next door who often don't want to study very much and falls demotivated too.

1, Setting reading aloud at beginning

About just few minutes practicing aloud English makes my brain warm up for not only processing English information but also turning on every skill to speak up English. Meaning it will help change your mode from Japanese to English.

2, intensive learning for pronunciation

I usually focus practicing pronouncing, because a goal I set has been is to be able to speak English. It's simple fact that I couldn't catch the sound that I can't speak.

And it's important that knowing the real sound used in conversation. Well, I've been trying to increase the number of expressions I know and I pronounce.

So I'm skeptical some remarks someone saying like these "contents are more important than pronunciation" and "despite poor pronunciation, it's OK making sense to listener facing you"...

3, benefit being interviewer rather speaker

When I feel I can't manage to keep conversation this time (with this group) or don't have an appropriate topic. I intentionally change from speaking to interviewing to pull out what the others want to tell, like interviewer.

Known the expressions of questioner is good way to do conversation efficiently because there are shorter and rememberable and attractive to the others heart. Plus, it's good people want to tell their own story...

4, using SNS

When I'm worried about whether an expression I made is correct or sounds natural. I often try to Google the expression or word. If they are relatively common, I can get lots answers. Especially comments or replies on Twitter are less too formal and descent. It means more real than what dictionary provides. Since they're usually made casually, off course just tweet, so I can get "natural or active expressions" that are what we couldn't have gotten in the past, unless we spend in a foreign country for years, which is so much valuable.

And thankfully they're available anytime anywhere as you want.

Anyway, Now I'm enjoying adventuring to see the expressions I haven't known. Once I knew its real pronunciation, only I try to exercise the sound.

It's not study but just exercise like athletes I guess.

Because I don't need to be a professor of English.

This is a tip I believe to get along with English.

Well, I'm going to expand the list my own English.



音楽のちから 山根 ひとみ

2021年3月にオンライン開催された『第1回箕面市姉妹都市フォーラム』に参加して、箕面市ハット市友好クラブに入会させて頂きました。

さて、投稿するにあたり『音楽のちから』というタイトルがふと頭に浮かびました。

私は幼少の頃よりオルガンやピアノを習い、中高生の頃は吹奏楽部でアルトサクスを明けても暮れても吹いていましたが、卒業後はぱったりと音楽から離れていました。

子育てが落ち着いた頃、友人に貸していたアルトサクスが35年ぶりに私の手元に帰ってきました。その間、JICA（青年海外協力隊）でブルキナファソに行った同級生が「言葉が通じなくても音楽で仲良くなるはず。楽器を持っていこう」と考えて、私のアルトサクスを持って行ったと聞き、海を渡って音楽で人々を繋げることができたかな、と思いを馳せました。

現在は吹奏楽団やジャズのビッグバンドで演奏して

います。ハットクラブでも窪さんや川島さんを中心に音楽好きが集まって『ハットクラブ軽音部』と称して楽しく練習しています。

先日CIRのトレースさんと一緒に歌う機会があり、『ホキマイ』などで大いに盛り上がりました。

音楽は不思議と人々の心の殻を破り、国境を越えて通じ合う世界共通の言葉だと思えます。

箕面市が、老若男女・全ての国の人々を笑顔にする『音楽があふれる街』になればいいなと密かに考えています。



クリスマスコンサートでは演奏より衣装重視です



トレースさんとハットクラブバンド

28 Years of Friendship Celebrated

Ray Wallace ONZM

Mayor of Lower Hutt 2010-2019

Friendship is a bond that knows no boundaries, and when it transcends borders, it becomes even more special.

Lower Hutt and Minoh City, have been nurturing a strong sister city relationship for the past 28 years, from the signing of the original Sister City agreement in July 1995 between Hutt Mayor Glen Evans and Minoh Mayor Takashi Hashimoto. Since that time the relationship has fostered cultural understanding, education and art co-operation, and lasting friendships.



The sister city relationship between Lower Hutt and Minoh City has opened doors to a vibrant cultural exchange. Both cities have embraced each other's traditions, fostering mutual respect, and understanding. Festivals, art exhibitions, and cultural performances have been organized, allowing residents to experience the richness of Japanese and New Zealand cultures. The Opening of the Hutt Minoh Friendship House in Lower Hutt back in May 1999 was a significant part of our strong relation. It was a wonderful day bringing the two cultures together.

Since that time there have been many Mayoral delegations to both Lower Hutt and Minoh City. Mayor Kurata led a delegation to Hutt City in 2012, 2015 and 2018. Mayor Wallace led a business, arts, and educational delegation to Minoh in 2015 and 2018.

As a result of the visit in 2012 a function was held at Minoh House where Mayors Kurata and Wallace discussed establishing a Skype programme between Minoh and Hutt Schools. International Relation Managers Linda Goss-Wallace and Noriko Ueno worked hard to establish the 3-sister school skype programmes. That has been a great success for several years for all three schools.

In 2015 an Arts Exchange Programme was organised by David Balm President of Hutt Art and Minoh Art President Minoru Kugo. This meeting of the two Art societies was facilitated Deputy Mayor David Bassett and this has been a strong and lasting relationship since with art exchange exhibitions been held in both cities.

Linda Goss-Wallace and her team established the MINTEX (Minoh Teacher Exchange Programme) in 2015 and the first teachers visit to Minoh happened in August 2016. The first Teacher was Michelle Gibson who enjoyed her experience so much she became a JET Teacher in Minoh. Her time living in Minoh had a major positive and profound effect on Michelle's life. Michelle-san has recently returned from a personal visit to Minoh where she caught up with all her wonderful friends. The Hutt Club in Minoh hosted a celebration event for Michelle-san and Minoh Mayor Kazuhiko Ueshima attended.

Hutt City has hosted 3 Japan Day events in 2015, 2017 and 2019 where thousands of local people have attended to experience the wonderful Japanese culture. All going to plan there will be a Japan Day celebration in November 2023.

Minoh City has also held several New Zealand day celebrations which both Linda-san and I have had the pleasure of attending in 2015 and 2018. It was very special to see Japanese people experiencing the New Zealand way and particularly enjoying the Wainuiomata High School Kapa Haka group performance to local people.

One of the most significant outcomes of the sister city relationship between Lower Hutt and Minoh City is the formation of lasting friendships. Countless individuals have developed personal connections, fostering goodwill and mutual respect. The bonds established through this partnership have transcended geographical distances, leading to visits, reunions, and continued support between the communities.

As Lower Hutt and Minoh City celebrates 28 years of sister city friendship in July 2023 it is evident that the relationship has thrived and brought immeasurable benefits to both communities. The cultural exchange, art cooperation, educational opportunities, and lasting friendships have enriched the lives of residents and created a stronger bond between the two cities. This anniversary is a testament to the power of international collaboration and serves as a reminder of the immense value that sister city relationships bring to our increasingly interconnected world.

＜アーダーン政権のコロナ対策について雑記＞ 太谷亜由美



ニュージーランド学会で、会長を務めております太谷です。
今回はニュージーランドで採られた、コロナウイルス関連の政策についての雑感を述べさせていただきます。

皆様ご存じの通り、ニュージーランドでは世界に先立ち、厳格なゼロ・コロナ対策が取られました。世界中で未曾有の事柄であり、対処法もまだなにも確立していない中、エビデンスベースの科学的知見に基づく諸政策、徹底した情報公開、なかでもジャシダ・アーダーン首相の熱心な国民との対話は世界中から称賛を浴び、これについては多くの学術誌にも記録されています。毎日の会見で、発表される日々の状況とプレス各社とのやり取りを見て、政治家としての誠実さを深く感じ取りました。厳しいロックダウンはニュージーランドの人々にとって過酷なものであったと思われませんが、彼女が首相であったからこそ、実行が可能だったのでしょう。

しかしながら、彼女の政権の素晴らしい働きにも関わらず、2022年8月、感染力がそれまでの株よりも強力なコロナウイルスデルタ株の流入によって、堰を切ったかのように感染者が増加し、またオミクロン株の置き換わりにより、益々感染者が増え、一方では、経済活動の再開への圧力にも直面しそれまでの社会の動きを極力止める政策からの転換が余儀なくされました。また、国会前でのワクチン接種の反対運動を目にし、公衆衛生の全国的な政策というものの難しさを感じざるを得ませんでした。

今も、各国がコロナウイルスパンデミックの出口戦略として、様々な課題に直面しています。アーダーン首相は残念ながら、2023年2月に力を使い果たしたかのように辞任され、世界中で惜しむ声が聞かれました。私もその内の一人ですが、アーダーン政権のコロナ対策の方向性について、科学者との協調した手法はやはり称賛を受けるに値すると現在でも考えています。

いつの日かまた、彼女の笑顔を見ることができるとを望んでおります。

クラブからのお知らせ

昨年につづき、6月開催の総会はマスクなしで開催できました。今年度の行事は例年と同じ、コロナ前の形で開催する予定です。皆さまと笑顔でお会いできることを楽しみにしています。

クラブのホームページの"What's New" を原則 1 回/月 更新します。御覧ください。

行事予定

行 事	月	摘 要
2023 年度総会・意見交換会	6月4日(日)	
大阪大学夏まつり 参加	7月1日(土)	大阪大学 箕面キャンパス
ALT CIR 歓迎会	10月	開催は未定
ニュージーランドワイン試飲会	10月	一般市民対象
多民族フェスティバル 参加 (ニュージーランドワイン販売)	11月11日(土)	一般市民対象
第3回箕面市姉妹都市フォーラム	11月	一般市民対象 メキシコ友の会共催
キウイパーティー	12月	

定例活動

活 動	摘 要
英会話サロン	月例 年 10 回(8月、12月は休み)
運営委員会	月例 年 11 回(8月は休み)
会報	年 2 回発行(Web上で1月と6月)
公報	ホームページ等

※行事の詳細は E メールでご案内します。
インターネットをお使いでない会員の方々は、お手数ですが会長 (Tel 090-1244-8275)、またはお知り合いに電話等でご確認をお願いいたします。

2023年度役員紹介

- | | |
|------------|---------------|
| 会長 阿部 一郎 | 委員 野村 太持 |
| 副会長 川島 一彦 | 委員 松崎 良太郎 (新) |
| 副会長 六角 みよ子 | 委員 河野 寿一 (新) |
| 副会長 窪 敏夫 | 委員 門浦 智 (新) |
| 会計 東條 暁之 | 委員 佐野 智宏 (新) |
| 書記 加藤 俊明 | 監事 片芝 賢二 |
| 委員 東 三貴子 | 顧問 小枝 正幸 |
| 委員 平井 美矢子 | 顧問 佐藤 徹 |
| 委員 山根 ひとみ | |

編集後記

今年はホテルも梅雨も早く、本格的な夏もうそこまで来ています。
箕面市内は国内外からの観光客が増えてきて、賑わいが戻りつつあります。ハットクラブでも姉妹都市交流や子どもたちのための事業など、会員の皆さまとイベントを盛り上げていきたいと思っています。

箕面市ハット市友好クラブHP 発行日：2023年6月
http://minoh-hutt.com/ 編集担当：加藤俊明、山根ひとみ